授業科目名	社会的自我論	大学名	作新学院大学
科目区分	ＶＵ連携講座	開講時期	後期（9 月 21 日～1 月 31 日）
学部・学科等	人間文化学部・人間文化学科	曜日	金曜日
必修・選択区分	選択	時限（時間）	1 時限目　9：00～10：30
標準対象年次	全学年	授業形態	講義
単位数	２単位	授業会場	学内講義室
担当教員名	山尾　貴則		
電話番号（代表者名）	028-670-3679	e-mail アドレス	yamao@sakushin-u.ac.jp
オフィスアワー	特に設けず，e-mail や電話で予約を取ってから，質問や相談に応じる。		

授業の概要

＜授業の目標及びねらい＞

本講義では，社会学がこれまで蓄積してきた知見をてがかりに我々の自我の成立メカニズムおよび自我の特質を明らかにする．その上で，現代日本社会に生きる我々が直面している自己に関わる諸問題を検討する．

＜前提とする知識・経験＞

社会学的自我論や承認論（G.H ミード，E.ゴフマン，A.ホネット等）に関する文献を読んでいることが望ましいが，必須の条件とはしない．

＜授業の具体的な進め方＞

大きく分けて3つの内容について講義する．

1. 社会学的自我論，社会学的コミュニケーション論

我々は，他者との関わりの中で自分自身を認識し，自我を獲得していく．本講義では，他者とのかかわりを通した我々の自我形成のプロセスを，社会学の知見を手がかりにして考える．

2. 役割論

E.ゴフマンの役割論を手がかりにしながら，我々人間のコミュニケーションにおいて重要な意味を持つ役割に関して，役割をどのように遂行するのか，役割を遂行するにあたってどのような問題が生じるのか等を考えていく．

3. 「認められること」の社会学

「他者に認められること」が我々人間の自己形成と自己維持にとって重大な意味を持つことを，A.ホネットの「承認をめぐる闘争」論を手がかりにして考える．その上で，「他者に認められる」経験が構造的に剥奪される可能性がきわめて高まっている現代社会において，我々が「他者から認められる」経験を取り戻すためにどのような道があり得るかを，担当教員の実践活動等を手がかりにしながら考える．

＜授業計画＞

第 1 週　ガイダンス―他者とのかかわりの中で自我は生まれる
第 2 週　逆説としての「野生児」(1) ―映画「カスパー・ハウザー」を観る
第 3 週　逆説としての「野生児」(2) ―カスパー・ハウザーとは「誰」か
第 4 週　他者とのかかわりの内実 (1) ―コミュニケーションとは何で「ない」のか
第 5 週　他者とのかかわりの内実 (2) ―G.H.ミードの身振り会話論
第 6 週　他者とのかかわりの内実 (3) ―「孤独」な営みとしてのコミュニケーション
第 7 週　役割遂行としてのコミュニケーション (1) ―E.ゴフマンによる役割行為の分析
第 8 週　役割遂行としてのコミュニケーション (2) ―役割が生み出す困難
第 9 週　役割遂行としてのコミュニケーション (3) ―パッシングという戦略
第 10 週　パッシングの「実例」―映画「ガタカ」が描く「未来」
第 11 週　「見えない」役割―病と感情
第 12 週　なぜ役割を遂行するのか―「認められること」の意味
第 13 週　「認められること」の再獲得を目指して (1) －若者を取り巻く社会の「病理」
第 14 週　「認められること」の再獲得を目指して (2) －若者支援活動を手がかりに
第 15 週　まとめ

＜教科書・参考書・教材と入手方法＞

教科書・参考書として『ポストモラトリアム時代の若者たち　社会的排除を越えて』（村澤和多里・山尾貴則・村澤真保呂著，2012，世界思想社）を指定する．

＜成績評価法＞

受講態度，コメントシート，試験で評価する．

＜教員からのメッセージ＞

「私とは?社会とは?」という問いにこだわり続ける知的好奇心と知的体力を持って受講してほしい．